

A分科会 学校簿記入門

運営委員：山路道彦
齋藤淳志

本分科会は、平成26年度の「会計基準と学校簿記」の分量が多かったため、そのうち、理論研修についてはB分科会「学校法人会計基準と計算書類の取扱い」に譲り、実務研修（演習）のみを行うこととしたものです。

本分科会では、学校簿記の実務経験が少ない方々24人を対象に、日常行う会計処理について「学校法人会計基準」に沿った実務研修（演習）を行いました。

教材は、資料A-1「学校簿記入門」、資料A-2「演習問題」、資料A-3「演習問題解答」を使用しました。昨年度と同じ形式ですが、より分かりやすいものとするため、説明等を加筆しました。

第1に、学校簿記のイメージをつかんでいただくために、学校簿記の全体像や学校法人会計基準、取引や仕訳について大まかに説明しました。

第2に、最も身近な業務となる資金収支計算の仕訳処理の実務演習を中心に行いつつ、「資金収支計算書」及び「活動区分資金収支計算書」を作成していただきました。

第3に、事業活動収支計算特有の仕訳処理について演習を行いつつ、「事業活動収支計算書」・「貸借対照表」を作成していただきました。

最後に、計算書類の見方について説明しました。

いずれにおいても、実務経験が少ない方々にも分かりやすいように、なぜそのような仕訳となるか、「資金収支計算書」、「事業活動収支計算書」「貸借対照表」はそれぞれどのようなものか、噛み砕いて丁寧に説明しました。また、演習問題も多めに用意し、参加者には実際に手を動かして会計処理の過程をたどっていただきました。

各校の現場では会計処理はシステム化されており、仕訳伝票の起票と入力により自動的に帳簿が作成されるのが通常ですが、本分科会では、会計処理を手作業で行うことを通じてその過程を理解する機会を提供しました。

昨年度の反省を踏まえて、全体像を最初に説明してイメージをつかんでもらうことを重視し、よりわかりやすい説明としたこともあり、昨年度より、熱心に受講された参加者が多かったように感じました。

また、演習問題を厳選した結果、基本的な会計処理について一通り説明することができ、最後に計算書類の見方についても説明することができました。

全般としては、本年度の本分科会は、初日に自己紹介を行って参加者相互の親睦を深めるとともに、参加者の学校簿記の理解を深めることもできたのではないかと思います。